

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 08010040

政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	8	子育て・子育ての充実	事業優先度	B		
単位施策	2	「子育て」支援の強化	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)		
事業名	保育所地域活動事業		見直し年度			
事業期間	平成25年度～平成29年度		担当課	8 保育所		
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	利用延べ人数		関係例規・法令名	#N/A		
事業目標	1200人		ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業		
住民参加 住民協働	有	高齢者、小学生との交流	関係個別計画名	無		

全 体 計 画		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	
事 業 内 容		事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	
計 画 内 容	保育所地域活動事業	高齢者、小学生との交流事業 地域子育て家庭への育児講座	高齢者、小学生との交流事業 地域子育て家庭への育児講座	高齢者、小学生との交流事業 地域子育て家庭への育児講座	高齢者、小学生との交流事業 地域子育て家庭への育児講座	高齢者、小学生との交流事業 地域子育て家庭への育児講座	
	事業費(千円)	2,750	550	550	550	550	
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
一般財源	2,750	550	550	550	550		
実 績 事 業 費	事業費(千円)	2,532	485	526	524	471	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
その他	0						
一般財源	2,532	485	526	524	471		
関 連 事 項	特定財源の名称						
	【評価・実績】	(実施内容等) 高齢者、小・中・高校生との世代間交流の実施 育児に関する情報提供等実施 (保育懇談会、親子レクリエーション) (実績:1,779人) ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 高齢者、小・中・高校生との世代間交流の実施 育児に関する情報提供等実施 (保育懇談会、親子レクリエーション) (実績:1,852人) ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 高齢者、小・中・高校生との世代間交流の実施 育児に関する情報提供等実施 (保育懇談会、親子レクリエーション) (実績:1,841人) ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 高齢者、小中高年生との世代間交流 育児に関する情報提供等実施 (保育懇談会、親子レクリエーション) 実績:1,867人 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 高齢者、小中高年生との世代間交流 育児に関する情報提供等実施 (保育懇談会、親子レクリエーション) 実績:1,823人 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	1200人	1200人	1200人	1200人	1200人
		年度達成率	88%	96%	95%	96%	86%
	第6期計画への継続 (継続有り)	全体達成率	18%	37%	56%	75%	92%
	備考欄						

事業名	保育所地域活動事業	評価者 管理職 職氏名	保育所長	大水麻理
		評価者 作成者 職氏名	児童保育係長	斉藤智美

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	入所児・保護者・子育て中の親	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	事業への参加者数			
【抱える課題やニーズは】	保育所は他の世代と接する機会や町民が保育の様子を見る場がない。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値		
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	地域住民との交流、行事への参加者の確保と保育内容が見られる環境づくり。		① 延べ参加人数	目標年度	平成29年度	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	他の世代や町民との交流を通して特に就学前年長児の自覚と意欲を育てるとともに、広く町民に保育現場を知ってもらう機会を作る。			目標値	1200人	
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	世代間交流	長寿クラブの保育所生活発表会への出演、保育所年長児の長寿クラブ誕生会での遊戯披露等相互訪問を実施。また、小中高校生の保育所訪問や就労体験等で交流を深めた。今年度は雄武高校ボランティア同好会の生徒が年数回訪問し居残り対応の子どもたちと交流を深めた。	実績値	1823人		
			達成度	151.9%		
	地域子育て家庭への育児支援		入所児の保護者には懇談会や保育所行事(親子レク、運動会、生活発表会)で子どもたちの成長を伝えるとともに保護者同士の交流の場となった。また、地域活動では保育所開放日を設定し、日常の保育現場の見学や児童との交流の場を設け、保育所への理解を深めてもらった。	②	目標年度	平成29年度
				目標値	〇〇	
		実績値	〇〇			
		達成度	#DIV/0!%			

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	核家族化が進む、中世代間交流は児童の育成に大きな役割を持つとともに、保護者のみならず地域全体で子育て支援として効果が高い。
必要/概ね必要/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	保育所以外の活動や異年齢との交流は入所児にとって保育士以外と関わることのできる貴重な体験となっていて、楽しみにしている活動である。また、学生においては就労体験を通し保育士の仕事に関心を持ちその語の進路に選択するケースも増えている。
有効/概ね有効/課題あり	<input type="checkbox"/>	達成	
	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

概ね効率的	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	教材等についてはできるだけ他の事業と併用が図られるよう工夫し、コスト削減に努めた。
	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

概ね公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	長寿クラブ員や施設利用者、保護者など事業ごとに対象範囲を明確にすることにより公平性を保つ。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
今年度は高校生との交流が多くあり、子どもたちにとっても有意義な経験となった。地域の方々や子育て家庭においては行事等で保育所の様子を伝えたり情報提供を行ったりした。保護者には情報交換の場になっており育児支援につながった。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
入所児にとって家族や保育士以外の異世代との交流は社会性を養う良い機会となり、今後も継続して実施していく。保護者や地域の子育て家庭においては交流の場を設け、情報発信を行い地域に開かれた子育て支援を行っている		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止